

## [ご意見 39]

Subject: NY 日本人教育審議会理事の皆様

GJSのキャンパスは、大金を使って購入していただいた大切な財産です。グリニッチで関係者が苦勞の末によく築いてこられた地域の皆様との信頼関係。努力して何とか維持しようではありませんか。折しも、今年は創立30周年の節目の年。これを守り、より良い学校作りをしていくことが、今この場にある私達の使命であると考えます。

私は、何が何でも売却に反対なのではありません。むしろ学校や父兄の意見を全く取り入れることなく、ほんの数名の方々により何もかも決められてしまうというそのやり方が、学校経営として乱暴だと申し上げたいのです。理事の皆様は、経営のプロフェッショナルでいらっしゃいます。その皆様が何十名と揃っていないながら、どうしてこの小さな学校ひとつ維持できないのでしょうか。逆に経営のプロだからこそ「売ってしまおう」という発想になるのですか。しかしこのキャンパスは、商品でも会社でもありません。学校です、教育の場です。教育のプロである校長先生や先生方の御意見をどうして尊重されないのですか。

GJSは、素晴らしい学校です。熱意あふれる優秀な先生方、熱心にお仕事をして下さっている管理部門の皆様。学校の皆様からは、子供達に対する深い愛情を感じます。私は、学校の皆様に敬愛し、日々感謝しております。

この学校の唯一の問題は、審議会と学校・父兄間の不平等な関係にあります。教育問題に本来無関係であるはずの労使・上下の力関係を持ち込むことなく、お互いを尊重し、自由に意見交換し、協調することも出来ずに、この学校に明るい未来など訪れるはずがありません。私達は、大切な子供の教育問題であるにも関わらず親としての意見すら言えず、ようやく聞いていただけたと思ったら、聞いたふりをして騙される。こんな学校他にあるのでしょうか。理事の皆様は、本業である経営の場に於いても、このようなやり方をなさっていらっしゃるのですか。

この春、放火事件後の説明会で一部の理事と事務局の方々の言動に強いショックと不信感を抱きました。その後の説明会、いただいた文書、理事の皆様のPTAへの対応、そしてあの9月の理事会での結果を経て、単に一父兄としての不信感にとどまらず、一消費者としても不信感を持つに至りました。今になって「理事は個人の立場でのボランティア活動」などとの言い訳は、一流企業のトップたる紳士に相応しくありません。皆様は、一流企業のトップだから理事に就くように頼まれたのです。ただのおじさんのところには、誰もそのような大役を頼みには来ないのです。皆様の言動とそこご判断には、大きな社会的責任があります。

「NY日本人教育審議会」 この組織が果たすべき真の役割、そしてその責任の重さを、どうか今一度お考えいただきたくお願い申し上げます。

---

## [ご意見 40]

今回のニューヨーク日本人学校の売却問題に関して、ニューヨーク日本人教育審議会（以下「審議会」という。）の取ってきた運営手法は、強引でかつ利己的、民意というものを全く無視した強権政治そのもので、保護者として到底受け入れられるものではありません。

当初は保護者の一員として、理想的な結論を見出すために審議会と建設的な議論をしていく責任を果たすつもりでございましたが、審議会がPTAの大多数の反対を無視し9月23日の理事会で売却を決議したことを知った際、審議会は最初から保護者や学校教職員と解決策を見出そうとして説明会を開催したのではなく、WFHAへの売却を実行するために「反対保護者のガス抜き」を行ったものであったに違いないと確信しました。

その後は、PTAからの審議会や審議会各理事に対する一連の抗議行動に対しても、問題の解決のために真剣に対話を行おうとするような誠実な態度は全く見られず、いよいよPTAと審議会が決定的に対立してしまった結果を招いた責任は、ひとえに審議会の運営方針、その運営を総括する審議会会長ほか役員にあると考えます。

このように、学校長をはじめとした教職員、子供達や親の思いを全く無視したやり方で一方的に事を運ぼうとする審議会は公平・公正に適切な判断を下せる合議体となっておらず、「在外教育施設の認識等に関する規定（文部省告示第百十四号）」第6条に定める「適正な運営管理」を行いうる団体となっていない点に最大の問題があり、もはや審議会の売却方針決定を白紙撤回のうえPTAと赤字問題解消のために建設的な議論を行うことでしか「教育・文化立国」を目指すわが国の施策にも合致すると信じて止みません。

---

#### **[ご意見 41]**

日頃のPTA活動ご苦労様です。

22日審議会理事とのミーティングの報告読ませていただきました。

明日火曜日に売却が決定とは驚きです。

是非この売却が可決されることない事を願います。

会長さんをはじめPTAタクスフォースの皆様には、大変かと思いますが、我々の学校を守るべき、最後まで、力の限り戦っていただけるなら応援いたします。

11月28日 PTA保護者

---

#### **[ご意見 42]**

Subject: 22日の会議雑感

22日のマンハッタンでの審議会理事との会合に参加しました。

そこで感じたことをここでお伝えします。

PTA代表者は与えられた時間内で端的かつ強力に主張されたと思います。

それにしても、会合は奇妙なものでした。

会議の冒頭に、先方の司会役から、「理事は質問、意見表明を一切せぬよう」断りがありました。

このため、理事の方々の考え、疑問点を直接伺う機会はありませんでした。

確かに、質疑応答なしのスタイルは、「会議」を時間内に終えるための「生活の知恵」かもしれませんが、そのようなものは話し合いではありません。

PTAも理事も忙しい時間をやりくりしてせっかく一堂に会しているのですから、お互いの理解を深める場を提供して頂きたかったと思います。

また、理事も司会役の提案に従い、PTAの主張に対する、見解、怒り、疑問など、なにがしかの自己の見解を表明される方が一人もいらっしやらなかったことも残念に思います。

理事の皆さんが一体どのような見解をお持ちなのか、そもそもPTAの主張を認識されたのか、一向にわからないまま会議は終了となりました。

(実際のところは秒読みされ、6時きっかりに打ち切られたのでした)